



前田 盛夫 *maeda morio*

現勤務先
福島県猪苗代土木事務所 所長

分野

PPP/PFI総論・上下水道・小規模自治体におけるウォーターPPPの導入

訪問可能地域

全国

相談手法

電話・メール

経歴

- 1987 福島県庁入庁
- 1992 下水道事業に携わる
- 2010 上水道事業に携わる
- 2016 県内市町村のストックマネジメントを策定
- 2023 コンセプションlightを策定
- 2026 国土交通省PPPサポーターに認定

PPP/PFI事業導入を検討されている方へのメッセージ

- ・ウォーターPPPは高いハードルではありません。目的を明確にし、“やるかやらないか”だけです！
- ・官民WinWinが必須条件！リスクの押付け合いはしない。

共有できる知識・経験

- ・小規模事業体のウォーターPPP導入支援の実績が複数あります。参加企業がないのでは？の不安や導入への課題を解決できる提案をいたします。

活動実績【中心的な役割を担ったPPP/PFI事業等】

- ◆ 昭和村 上昭和浄化センター等包括管理運営業務委託
 - ・人口1,200人の小規模自治体で三つの污水处理施設を持ち、一人の事務系担当者が上下水道、農集排、浄化槽、一般土木の業務を担っている状態で、持続可能な事業の構築とは大きなギャップが生じていた。このギャップを埋める施策としてウォーターPPPの導入を行った。この導入に向けての支援と導入後の民間事業者の事業遂行にあたっての指導助言、モニタリングの役割を中心に担った。
- ◆ その他、小規模自治体9件のアドバイザーを歴任。加えて、約40自治体及び民間企業約50社に対して勉強会を実施。

連絡先

NPOふくしまウォーターPPP協会 前田盛夫

電話 090-4318-4547

E-mail maeda20040503-morio@yahoo.co.jp

*現在はボランティアで活動していますが、連絡は下記の勤務先でも可能です。

勤務先

福島県猪苗代土木事務所 所長

電話 0242-62-3102

E-mail maeda_morio_01@pref.fukushima.lg.jp

小規模事業体におけるWPPPの概念（例：福島県昭和村）

I <あるべき姿>

「ヒト・カネ・モノ」が整っている状態。

- 技術者が配置されている。
- 修繕・改築更新費が必要額確保されている。
- 施設・器機設備が適正な健全度に保たれている。

(ギャップ)

このギャップを埋めるための施策として、
PPP/PFI (ウォーターPPP) の導入。
● 最大の課題は「ヒト」。
「カネ」も「モノ」も、根本はヒトが備わってなければ解決できない。

II <昭和村の現状>

- 技術者がいない。(県代行で施工したため下水道のスキルが無い。)
- 国費を活用できていない。(厳しい財政状況の中、村単独費で対応。)
- 老朽化器機が急増。(供用開始20年経過)

官らか民へ
(WPPPレベル3.5)
2

過去の講演・相談実績等

- ・「ふくしまウォーターPPP/PFIプラットフォーム R6年度セミナー」登壇 (R6.7.24)
- ・「新潟県ウォーターPPP導入検討研修会」登壇 (R7.10.27)
- ・「第9回全国パラボラ工法協会東北支部研修会」登壇 (R8.4.16)
- ・ その他、全国の自治体及び企業からの問い合わせ及び資料提供が多数あり。